

Members

Professor
Assistant Professor

伊藤香織
高柳誠也

M2

一谷和希
菊嶋勇介
小山朝子
齋藤匠
鈴木晴瑛
高梨淳
田邊真弓
常泉佑太
中谷佟介
林卓弥
松下耕太
劉傑峰

M1

阿部萌子
岩田采子
上野亜耶
酒井亮祐
須藤里佳
前田旭陽

B4

岡村隼多
金沢優輝
孫溪澤
田中里美
佃元輝
土屋遼太郎
徳永景子
長井香南
東裕花里
前橋宏美
結城和佳奈

fab C. vol.15

2021年1月1日 発行

◇編集

徳永景子 東裕花里

◇発行

伊藤香織都市計画研究室
東京理科大学工学部建築学科
〒278-8510
千葉県野田市山崎 2641
TEL 04-7123-4785 (研究室直通)

URL <https://www.rs.noda.tus.ac.jp/~i-lab/>

◇印刷・製本

祥美印刷株式会社

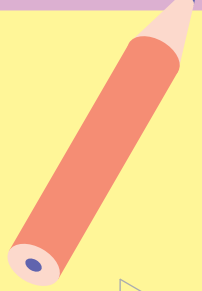
fab C. は伊藤香織研究室（東京理科大学工学部建築学科）が発行するフリーペーパーです。研究室の活動を中心に、都市の研究とデザインに関する情報やメッセージを発信する媒体を目指しています。

fab C.

vol.15

Index

- 01 ... Lab Life Under covid-19
- 03 ... What's your stay-at-home challenge?
- 05 ... Physical distancing picnic
- 09 ... Picnic Interview
- 13 ... Walking around town
- 15 ... Lab projects&Individual projects
- 17 ... Theses & Design



Lab Life Under covid-19

2020年度は、COVID-19感染拡大により、これまでにない年になりました。伊藤研究室でも、初めての事態に戸惑いつつも、様々な模索をしながら活動を行っています。

2月 3年生研究室配属

2020年度から6年一貫教育コース設置のため、配属が早まりました。感染拡大の影響により恒例の歓迎会は中止となりました。

3月 4年生・M2卒業

卒業式・歓迎会は中止。指導教員から学位記・修了証書を手渡し、卒業を祝いました。

4月 2020年度ゼミ開始
緊急事態宣言発令

2020年度4月～8月のゼミはすべてオンラインで行われました。調査に行けない日々が続きました。

5月 前期授業開始
オンライン・ピクニック



恒例のピクニックは、それぞれ自宅やベランダ、近隣の公園などから参加するオンライン形式になりました。遠方のOB・OGの参加などオンラインならではの良さもありました。

オンラインオフイスアワー・読書雑談会開始
中間発表
緊急事態宣言解除

毎週ゼミ後に教時間 zoom を立ち上げたまま、昼食等とりながら雑談の時間としていました。そこから、院生が本を紹介する読書雑談会に発展しました。併せて、研究室で気軽に相談できる機会がなくなつた学生のために、ゼミとは別に教員と研究の相談ができる時間が設けられました。

6月 7月



読書雑談会に取り上げられた本

8月 中間発表
前期懇親会



直接会うことがないまま、中間発表終了後の懇親会もオンライン上でおこなわれました。ランダムに小グループに分けて、学年間の交流を図りました。

発表する学生と教員が対面でゼミを行い、それを配信して研究室メンバーがオンラインで閲覧するハイブリッド対面ゼミを開始。研究室にも行くことが出来るようになり、対面授業が一部再開。

対面ゼミ再開

9月 後期授業開始



大きい教室で密度を下げながら、2020年度初めての対面での中間発表がおこなわれました。同じ空間にいることで、議論が大いに盛り上がりまし

中間発表

10月

11月 12月
フィジカル・ディスタンスング・ピクニック

感染症対策のために、空間情報の活用などかたちを変えつつも、ピクニックやまちあるきなどの研究室活動を模索しました。

3年生仮配属、まちあるき

What's your stay-at-home challenge?

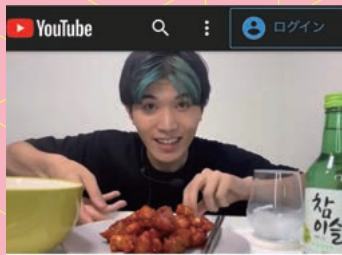
緊急事態宣言期間中、研究室に
来られない中、何をしていたの
でしょう。個性豊かな研究室の
メンバーに聞いてみました。



崖線や都市河川沿いの公園や広場を見
ていました。都市の中に現れる残された自
然の価値が認識され、様々な居方が生ま
れていました。 高柳助教



徒歩・自転車圏で改めて公開空地・有効
空地を廻りGISに記録しました。人のいな
い空地は新鮮で、空間として見直す機会に
なりました。 伊藤教授



自粛期間など、なかなか友達に会えな
い中、YouTubeを利用して自分のエネル
ギーを友達に届けていました！ B4孫



友達とクラフトバンドでかごバッグ
作りをしました。作ったバッグを持っ
てピクニックに行ったりしてました！
B4 前橋



登山をしました。楽しむことはもちろ
ん、自然と人工、部分と全体など登山と
建築の類似性を発見しました。早く山に
登りたいです。 M2高梨



緊急事態宣言直後 4月 19 日に、都市
を観察するために千葉県の自宅から東
京都渋谷まで 46.41km のサイクリング
を行いました。 M1 前田



溜めていた観たい映画リスト (300 本
近く)を一気に消化。○タイヤに入り浸り、
映画に対してはストイック生活を送って
いました笑 M1 阿部



Physical distancing picnic



春のピクニックはオンラインとなりましたが、秋は実地での実施を模索し、フィジカル・ディスタンスング、ピクニックを行いました。これは、一定の距離を保ったまま人が交流するときの空間配置の移り変わりを観察する【社会的行動実験観察調査】を兼ねています。今回は、スペースシンタックス・ ज्या

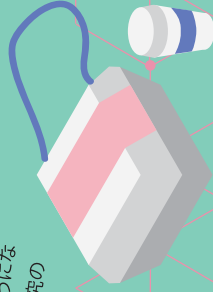
パンのご協力のもと、画像認識によって人の位置・分布・動きを観察しました。

パンのご協力を受けて、屋外空間の価値が再認識されるようにな

ら、今後の公共空間活用に向けた研究の

一環として、中をまわります。

一環として、中をまわります。





Design of the picnic experiment

フィジカル・ディスタンシング・ピクニックを実施するために、ラグ、食事、移動方法、調査方法、コミュニケーション方法を設計しました。

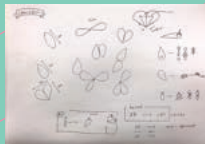
ラグ

人と人との距離を2m以上に保つラグを設計しました。半径1mの円と三角形を組み合わせた車型を採用しました。円の中心に座れば2m以上の距離を確保でき、様々な集まり方ができるかたちです。



食事

個別包装として、数力所のフード専用ラグに置き、各自が取りに行き自分のラグに戻って食べる、という形式にしました。肩にかけられるランチボックスで持ち運びを容易にしました。



スケッチや模型での検討、新聞紙でのスタディ、実際のラグ制作。アースカラーのフリース素材の布を用いました。

移動

自由な交流を楽しむために、適宜移動して集まり方を組み替えていきます。ラグの移動は、車型の先をもって引きずります。全体でひとつの大きな集まり、小さな輪の対話、10人程度で大きな輪になってヨガを行うなど、多様な集まりができました。

位置情報の取得

スペースシンタクス・ジャパンの開発したシステムにより、画像認識で特定された人の位置が点で表されています。人同士の距離が2m以下になると点が赤色で表示されます。



画像認識ソフトの設定作業

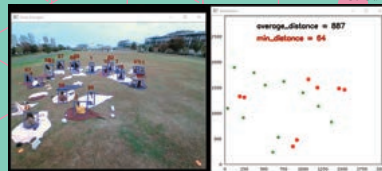
コミュニケーション

ピクニック・インタビューで全員がひとつの話題に耳を傾けるために、zoomを使って音声配信しました。ゲストとインタビュアーが話す様子を、各自スマートフォンやタブレット経由で聞き、質疑応答も行いました。

開始時



1時間後



2時間後



©スペースシンタクス・ジャパン(株) (担当:山崎 諭介)

画像認識による位置情報取得

Picnic Interview

ピクニック・インタビューでは、フィジカル・ディスタンシング・ピクニックで人の位置検出にご協力くださったスペースシンタックス・ジャパンの高松誠治さんにお話を伺いました。

スペースシンタックス・ジャパンで行っている調査についておしえてください。

よくやるのは3種類あります。1つは単純に人の量を数えるカウント調査、2つ目が歩いている人を追いかけて行き、ここで立ち止まったとか、ここでキョロキョロして迷っているということ記録していく追跡調査。3つ目がある場所に20代女性が座って何か食べているというようなことを記録する調査。観察して調査することのメリットは、細かく記録できることなので、たぶんこれからもやります。一方で、今日みたいな調査は細かいところはわからないけど、ずっとデータを取り続けられるので、自動でどんどんデータがたまっていくというメリットがありますね。

Space Syntax は、空間レイアウトから場所の特性を数値化するという技術です。例えば、商業施設で歩いている際に、今まで見えなかったものが急に見えだすような場所に行くと、何があるんだろうという風にちょっと歩くスピードを遅くしたり、立ち止まって周りを見渡すという行動が起きやすい。それを空間的に説明するために、ある位置からの見える範囲を数値化し、色を付けます。広い範囲が見える場所ほど

高松 誠治

スペースシンタックス・ジャパン代表取締役。徳島県生まれ。ロンドン大学大学院で、ビル・ヒリアー教授のもとSpace Syntax理論について学ぶ。2006年スペースシンタックス・ジャパンを設立。近年は、国土交通省の研究プロジェクト等にも主体的に携わっている。

赤く、狭い範囲しか見えない場所は青く塗れば、青いところから急に赤い場所に出ると、人はキョロキョロするということになる。場所自体が狭いのによりがよく見えるような空間をつくってしまうと、みんなキョロキョロして、後ろから来る人が通り抜けられなくなるので、混雑してしまう。だからもう少し広くしましょうとかいう形で、スムーズに人が流れるレイアウトやデザインにするためにはどうすればいいのかを空間の指標で説明します。

今回使用しているシステムについておしえてください。

スペースシンタックス・ジャパンでおこなう仕事の一部に、人の動きや滞留行動の調査があります。その中で、オープンスペースで人の位置を記録していく調査があり、それを新しい技術でできないかということで、去年の秋からこの春まで金沢21世紀美術館で開催した展覧会で試してみました。カメラで撮った画像を使ってAIで人の位置を検出するシステムで、伊藤研OBの人が最初につくってくれました。

公共空間にはベンチなどいろいろなものがあるので、レイアウトと人の行動との関係を調べるために、どういうところに人が立ったり座ったり滞留しやすいかというのを記録します。今日はピクニックでどういう人の位置関係になるかを見ていきます。



金沢21世紀美術館での活動の様子



同活動での今回利用したシステムの使用の様子

最近の再開発で創出されている公共空間についてどう思いますか。

ここ数年特にですけど、日本の人たち、東京の人たちが屋外空間にいることの楽しみをより感じるようになってきているように思います。また、空間をつくるときにそういう議論がかなり出てくるようになってきたと思いますね。そういう意味では、この10年間ずいぶん変わったと思っていて、うまくつくられているところは増えているかなと思います。ただ、そうではないところもいっぱい生まれているのも事実。例えばタワーを建てる計画であれば、タワーの事業採算性から入り、大きな配置が決まり、残ったところを屋外空間としてより良くつくっていかうという議論になることが多い。だけど、そもそも配置が良くないとどう頑張ってもうまくいかない。最初の大きな配置の議論の時点から周りの人の動きや雰囲気を理解したうえでやっていくと、より良い場所になるんじゃないですか。場所場所でうまくいっているところもあればそうではないところもある気がします。

高松さんの街を見るポイントをおしえてください。

職業柄、やっぱり人を見るというのがまずありますね。また、行けそうで行けないところや、人が全然いないのにベンチがいっぱいあるところなど、「変なところ」を見つけます。



離れて座っている人はスマートフォンやタブレットからインタビューを聞きました。

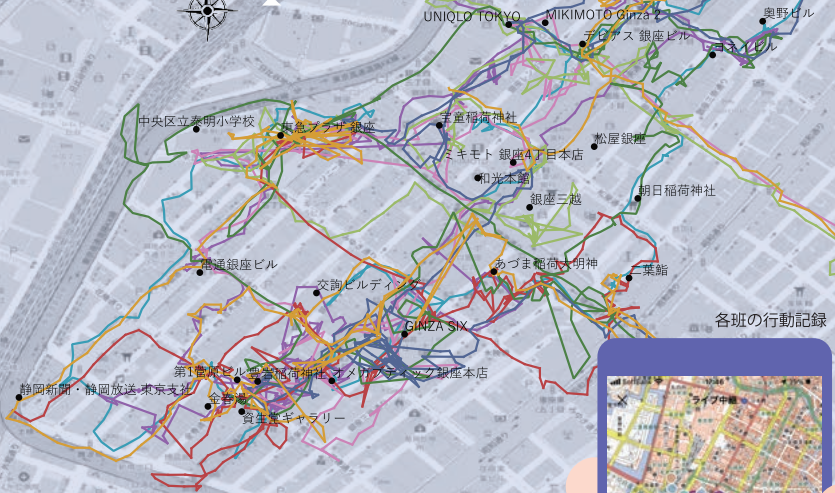
逆に、何も無い場所なのに人が結構溜まっていたり、普通と違うところも見つけたいと思っています。そういう場所は何か理由や経緯があって生まれているはずなので、そこから街の状況が少し分かるかなと。また、地図を見るのは好きなので、歩いてみてなんか変だなと思ったら地図で見てみる。すると、ああこういうことやっぱりな、とか、いろいろ見えてきます。逆のパターンもあって、地図上でちょっと変だなという場所に行ってみて、ああなるほどなという場合もあります。そういう場所を見つけるとちょっとうれしい。変な場所って、狙って作れるものじゃないけど、変な場所がある街のほうが面白かったりするの、そういうところが魅力にもなるのかなと。

都市について学んでいる学生に向けてメッセージをいただけますか。

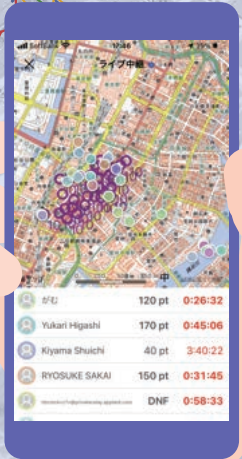
今、いろいろと勉強したり研究室の活動をしたりしている内容を忘れないでください。やっぱり仕事になると、途端につまらなくなってしまう人が多いですよ。ほんとに大学の延長線上にあるはずなんですけど、就職して、ああやらないといけないとか、こういうものなんだというのを教わって、そうしないといけないと思う人が多いので。今面白いなと思っていることを、これから先、仕事をするようになって同じ感じでやっていただきたいと思っています。



東京臨海広域防災公園でゆりかもめと東京国際展示場を背景にピクニックを楽しみました。

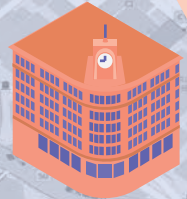


各班の行動記録



Walking around town Ginza

例年、3年生の仮配属の一環でまち歩きを行っています。2020年は感染症対策のため、オリエンテーリング・アプリを活用した少人数でのまち歩きを銀座で行いました。



1 奥野ビル(設計: 興業会アパート設計部長)

興業会アパート設計部長による設計。中でも高層かつ機能的なショップが多く入居し誇られる。よく見ると建物の広さで高層が高くなる。建物の内には手動式エレベーターと3つの大人用階段が存在する。

2 MIKIMOTO GINZA (設計: 伊藤豊雄)

伊藤豊雄による設計。鏡面コンクリート構造を採用した外壁が目を奪った。内部には緑地が広がる。開口部では50mの内部の景色を望みやすい大窓が印象的であり、3つの大人用階段が存在する。

事前に作成されたヒントの一例



位置情報を用いて地図上のチェックポイントを回るナビゲーションゲームを設定できるNaviTabiというアプリを使用しました。伊藤研究室の担当学生が事前調査で建築や路地など銀座エリアの見所をピックアップし、各スポットから40m以内に入るとアプリに通知されヒントが表示されるよう設定しました。



テーマ: 床



テーマ: スケール

当日は、少人数のグループでアプリを使って銀座を回りました。表通りだけでなく裏通りや路地を通るように歩いて、各スポットでそれぞれが気付いた対象を写真を撮ってアプリに投稿しました。解説文から対象物を探す形式は、研究室メンバーにとっても新鮮な体験になりました。

その後、各班に与えられたテーマにしたがって、各自が写真のポイントを発表しました。注目する視点によって対象物の切り取り方に違いが出ていて、街歩きの奥深さを再確認しました。

Lab projects

伊藤研究室で活動している研究会です。

シビックプライド研究会

昨年の欧州調査を踏まえて議論を重ね、シビックテックや建築教育に関わる意見交換も行いました。M2 小山 M1 岩田 B4 岡村



公共空間研究会

公共空間に関する修士論文に取り組み修士1年3人で、週に1度の輪読会を行い、知見を深めました。M1 上野 M1 須藤 M1 前田



Individual projects

研究室メンバーの個人の活動です。

Architecture Workshop 奈良

AAF主催の建築学生ワークショップ東大寺に研究室の2名が参加しました。

自ら制作した鹿によって食べられる素材を用いることで、短期間で減築されていく建築を提案しました。 M2齋藤

東大寺の境内に吉野杉を活かした空間を制作しました。町や人、材料と向き合い、形になった瞬間は感動でした。 M1岩田



VIVISTOP 柏の葉インターン

子供のクリエイティブフィールドを展開している企業に参画しています。建築や都市の文脈からWSを企画することもあります。分野を横断したものづくりのサポートがメインです。子供や他分野の方と交流することで刺激的な時間を過ごしています。 M2小山



TERATOTERA

JR 中央線沿線を舞台としたアートプロジェクト TERATOTERA にボランティアとして参加しました。今年度はオンライン開催でしたが、毎年まちなかの公共空間や空き店舗等を利用してアーティストによる表現活動が展開されています。 M2 常泉



Theses&Design

<2019年度卒業論文(通年)>

携帯情報端末の利用が自由散策行動に与える影響
—表参道周辺でのケーススタディー—
近郊都市駅周辺における駐車場用地転換の特性
—茨城県龍ヶ崎市及び牛久市を対象として—

勝又康太 前田旭陽

酒井亮祐 野上昌孝

<2020年度卒業論文(半年)>

屋号語彙の地理的分布にみる地域の特性
—旧唐桑町屋号電話帳にもとづく分析— (最優秀卒業論文賞)
新聞記事の記述表現の変化からみた場所のイメージの変遷
—青山地区の事例—

結城和佳奈 徳永景子 前橋宏美

孫澤溪 東裕花里

<2019年度修士設計>

まちの再編 —移動の変化に伴う暮らしから—
void urbanism guide —不安定な都市の暴露と建築のふるまい— (修士設計優秀賞)
風の構築 —自然環境と建築の距離を測る暮らし方の提案— (修士設計優秀賞)

堀野智寛

福嶋佑太

盛田瑠依



福嶋佑太



盛田瑠依

<2019年度卒業設計>

星見の塔
とどまり・つながり
農山漁村の風景

阿部萌子
石川幸陸
岩田采子

きっかけをつくる駅
都会のまほろば
まちへの遊歩道

上野亜耶
須藤里佳
塚本寧々

<査読無論文>

伊藤香織 (2020), 都市への思いをモデル化する, 計画行政 43(3), 7-12.

<研究発表>

高柳誠也(2020), 農林業センサスからみた農業集落の地域活動と人口動態との関係, 日本建築学会学術講演梗概集, 農村計画, pp.21-22.

松下耕太, 伊藤香織, 高柳誠也(2020), 首都圏郊外の駅周辺における小売店舗の業種に関する研究, 日本建築学会学術講演梗概集, 都市計画, pp.295-296.

上野亜耶, 伊藤香織, 高柳誠也(2020), 中心市街地におけるお気に入りの場所と地域愛着の関係—水戸市中心市街地を対象として—, 日本建築学会学術講演梗概集, 都市計画, pp.327-328.

一谷和希, 伊藤香織, 高柳誠也(2020), 中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップ報告の評価に関する研究, 日本建築学会学術講演梗概集, 都市計画, pp.335-336.

中谷終介, 伊藤香織, 高柳誠也(2020), 東京23区におけるゲストハウスに関する研究—立地特性及び交流機能に着目して—, 日本建築学会学術講演梗概集, 都市計画, pp.435-436.

須藤里佳, 伊藤香織, 高柳誠也(2020), 青山地区における空間変容と場所認識に関する研究—児童期の遊びを中心とした行動の記憶から—, 日本建築学会学術講演梗概集, 都市計画, pp.483-484.

阿部萌子, 岩田采子, 伊藤香織, 高柳誠也(2020), 回遊行動に基づく表参道の機能的役割に関する研究, 日本建築学会学術講演梗概集, 都市計画, pp.989-990.

常泉佑太, 伊藤香織, 高柳誠也(2020), アートプロジェクトでの屋外公共空間を利用した表現活動と市民の参加形式の関係—東京アートポイント計画を対象に—, 日本建築学会学術講演梗概集, 都市計画, pp.1043-1044.

酒井亮祐, 野上昌孝, 伊藤香織, 高柳誠也(2020), 近郊都市駅周辺における駐車場用地転換の時系列変化と立地特性—茨城県龍ヶ崎市及び牛久市を対象として—, 日本建築学会学術講演梗概集, 都市計画, pp.1173-1174.

前田旭陽, 伊藤香織, 高柳誠也(2020), 携帯情報端末利用が自由散策時の立ち寄り場所決定と経路選択に与える影響, 日本建築学会学術講演梗概集, 都市計画, pp.1225-1226.

結城和佳奈, 徳永景子, 前橋宏美, 一谷和希, 伊藤香織, 高柳誠也, 岡部佳世, 且まゆみ(2020), 唐桑半島の屋号語彙とその分布, 地理情報システム学会第29回学術研究発表大会, ポスター発表.

岡部佳世, 一谷和希, 結城和佳奈, 徳永景子, 前橋宏美, 伊藤香織, 高柳誠也, 且まゆみ(2020), 地域を構成するクラスター: 気仙沼市唐桑町屋号電話帳を用いたネットワーククラスター分析, 地理情報システム学会第29回学術研究発表大会.

高柳誠也(2020), 複数災害リスク想定地域における土地利用変化の傾向, CSIS DAYS 2020, A12.

松下耕太, 伊藤香織, 高柳誠也(2020), 首都圏郊外部における駅前小売店舗の集積状況と業種構成の類型化とその広域的傾向, CSIS DAYS 2020, C10.

徳永景子, 結城和佳奈, 前橋宏美, 一谷和希, 伊藤香織, 高柳誠也, 岡部佳世, 且まゆみ(2020), 屋号語彙に表れる集落の地理的分布, CSIS DAYS 2020, D13.